

古矢先生を送る

2012年3月末をもって、アメリカ太平洋地域研究センター長でいらっしゃる古矢旬教授が、東京大学をご退職されることとなりました。多くの方々をご存知のとおり、古矢先生には2007年4月に北海道大学から駒場にお移りいただいて以来、当センターの研究・教育の発展のために並々ならぬご尽力をいただいております。古矢先生のわれわれに対する知的貢献がいかに大きなものであったかは、この業績一覧が示すとおりでございます。センター関係者を代表して、古矢先生の学恩に深く感謝し、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

東京大学大学院総合文化研究科 アメリカ太平洋地域研究センター 副センター長
遠藤泰生

◆古矢旬 業績一覧

A. 著書

- 『ブッシュからオバマへ アメリカ変革のゆくえ』岩波書店、2009年。
- 編著『権力と暴力』（シリーズ・アメリカ研究の越境、第2巻）ミネルヴァ書房、2007年。
- 編著『史料で読むアメリカ文化史』第5巻（『アメリカ的価値観の変容』）東京大学出版会、2006年。
- 『アメリカ 過去と現在の間』岩波新書、2004年。
- （遠藤泰生と共編著）『新版アメリカ学入門』南雲堂、2004年。
- 『アメリカニズム——「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会、2002年。
- （五十嵐武士、松本礼二と共編著）『アメリカの社会と政治』有斐閣、1995年。

B. 翻訳

- （中野勝郎と共訳）ジェームズ・クロッペンバーグ『オバマを読む』岩波書店、2012年。
- （斎藤眞、阿部斉と共訳）ジョン・ハイアム『自由の女神のもとへ』平凡社、1994年。

C. 論文

- 「現代アメリカ外交の展開」『世界史のしおり』帝国書院、2010年10月号、1-3頁。
- 「アメリカ・ナショナリズム」大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009年、293-314頁。
- 「戦後日本のアメリカ研究とトクヴィル」松本礼二・三浦信孝・宇野重規編『トクヴィルとデモクラシーの現在』東京大学出版会、2009年、270-280頁。
- 「研究ノート 宗教的原理主義と世俗政治——アメリカ・キリスト教の場合」『アブラハムの伝統の臨界——三大一神教の哲学、神学、政治論とその外部の地域文化的研究』（平成17年度-20年度科学研究費補助金 基盤研究（A）研究代表者 大貫隆 研究成果報告書）2009年3月、165-183頁。

- 「オバマ政権の政治的課題」『生活経済政策』No.147 (2009年4月)、8-12頁。
- 「オバマ大統領の誕生と変貌するアメリカ——大統領就任演説にみるオバマの政治姿勢」『月刊マスコミ市民』482号、2009年3月、60-70頁。
- 「オバマは何を変えたのか」『外交フォーラム』2009年2月号、64-70頁。
- 「アメリカの対外介入——歴史的概観」黒木英充編『「対テロ戦争」の時代の平和構築』東信堂、2008年、165-85頁。
- 「2008年選挙の歴史的位相」『外交フォーラム』No. 237 (2008年4月号)、14-19頁。
- “A New Perspective on American History from the Other Side of the Pacific,” *The Japanese Journal of American Studies*, No. 18 (June 2007): 59-71.
- 「アメリカニズムと暴力」『権力と暴力』(シリーズ・アメリカ研究の越境 第2巻) ミネルヴァ書房、2007年、1-14頁。
- 「概説」『史料で読むアメリカ文化史』第5巻(『アメリカ的価値観の変容』) 東京大学出版会、2006年、1-44頁。
- 「都市社会分断の危機：解説および史料翻訳」『史料で読むアメリカ文化史』第5巻(『アメリカ的価値観の変容』) 東京大学出版会、2006年、236-254頁。
- 「第一部 概説」アメリカ学会編『原典アメリカ史』(第8巻 衰退論の登場) 岩波書店、2006年、3-65頁。
- “Japanese Intellectuals Define America, from the 1920s through World War II,” in M. Kazin and J. A. McCartin, eds., *Americanism*, (Chapel Hill: The Univ. of North Carolina Pr. 2006): 192-204.
- 「アメリカニズムと『人種』」川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』名古屋大学出版会、2005年、1-34頁。
- 「思想の言葉——マッカーシイズム再訪」『思想』No. 972 (2005年4月)、1-4頁。
- 「変化と終焉——アメリカ史とアメリカ文化史」亀井俊介監修、平石貴樹編『アメリカ——文学史・文化史の展望』松柏社、2005年、33-52頁。
- 「アメリカの占領と他者像」同時代史学会編『占領とデモクラシーの同時代史』日本評論社、2004年、105-132頁。
- 「アメリカ史における『ナショナリズム』問題」『アメリカ史研究』第27号、2004年7月、3-19頁。
- 「現代アメリカを考えるために」『デジタル月刊百科』2004年1・2月号、平凡社。
- 「現代アメリカ研究の枠組み」『アメリカ研究入門』第3版、東京大学出版会、2003年、14-29頁。
- “Teaching American Experience in Japan”『北大法学論集』54巻4号、2003年、436-446頁。
- “Japanese Reception of American and Soviet Culture during the Cold War, 1945-1963”『北大法学論集』54巻3号、2003年、276-288頁。
- 「『ポスト9・11』時代のアメリカの自画像」『アステイオン』59巻、2003年、159-169頁。
- 「二つの自由」猿谷要編『アメリカよ!』弘文堂、2003年、24-31頁。
- 「アメリカの市民と日本の『市民』——一つの比較」『聖学院大学総合研究所紀要』(「『市民』とは何か——現代市民社会論の現状と課題——特集号」) No.29、2003年、120-134頁。

- 「自由と巨大国家の間で——政治思想の伝統」有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年、192-213頁。
- 「『冷戦以後』——アメリカニズム・グローバリゼーション・ナショナリズム」『アメリカ研究』36号（2002年3月）、1-22頁。
- 「宗教倫理と政治統合——アメリカ合衆国の場合」『東洋学術研究』第40巻第2号（2001年12月）、171-193頁。
- 「アメリカニズム：20世紀から21世紀へ」神戸大学国際文化学部『第5回国際シンポジウム報告書：アメリカニズムの21世紀』、7-13頁。
- 「『アメリカの世紀』の終わり？」山内昌之編『岩波講座 世界歴史27 ポスト冷戦から21世紀へ』岩波書店、2000年、147-178頁。
- 「『移民国家』における『移民問題』——現状と展望」五十嵐武士編『アメリカの他民族体制——「民族」の創出』東京大学出版会、2000年、45-69頁。
- 「『反共主義体制』の展開と解体」久保文明他編『現代アメリカ政治の変容』勁草書房、1999年、76-121頁。
- “Predecessors: A Personal View,” in Rob Kroes, ed., *Predecessors: Intellectual Lineages in American Studies* (Amsterdam: VU University Press, 1999): 331-339.
- 「マルティカルチュラリズムと国民統合——一つの歴史的眺望」長谷川晃編『市民的秩序のゆくえ』（北海道大学ライブラリー第4巻）北海道大学図書刊行会、1999年、211-276頁。
- 「アメリカニズム：その歴史的起源と展開」『20世紀システム 1 構想と形成』東京大学出版会、1998年、61-105頁。
- 「日本の市民とアメリカの市民」今井弘道編『「市民」の時代』北海道大学図書刊行会、1998年、199-231頁。
- （今井弘道氏と共著）「市民とは何か」今井弘道編『「市民」の時代』北海道大学図書刊行会、1998年、264-297頁。
- “American Exceptionalism: A View from Japan,” *Nanzan Review of American Studies* (南山大学アメリカ研究雑誌) vol.29, no.1 (Summer 1997).
- “Graduate Student and Quaker,” in John Howes, ed., *Nitobe Inazo* (Boulder: Westview, 1997).
- 「反共主義」歴史学研究会編『講座世界史9 解放の夢』東京大学出版会、1996年、143-160頁。
- 「現代アメリカの移民問題」『国際問題』第412号（1994年7月）、32-49頁。
- “The Meaning of Political Radicalism in Cold War America”『北大法学論集』43巻6号、1993年。
- 「『レーガン革命』前史」阿部齊・五十嵐武士編『アメリカ現代政治の分析』東京大学出版会、1992年、65-98頁。
- 「『移民国家』アメリカの変貌——一九六五年移民法から一九八六年移民法へ」『北大法学論集』40巻5・6合併号下巻（1990年9月）、2157-2193頁。
- “Social Control and Socialism”『北大法学論集』第37巻第6号（1987年3月）、992-1008頁。

- “From Sojourner to Small Farmer: The Evolution of the Japanese Problem in California, 1885-1913” 『北大法学論集』 36 卷 1-2 号 (1985 年)、592-622 頁。
- “Nitobe Inazo in Baltimore” 『国際学論集』 (上智大学) 15 号、1985 年、43-71 頁。
- 『『東京独立雑誌』とアメリカの雑誌界』 月報 6 『内村鑑三全集』 第 7 卷 (1981 年 3 月)、1-4 頁。
- 「社会主義と都市——ミルウォーキーの場合」 阿部齊・有賀弘・本間長世・五十嵐武士編 『世紀転換期のアメリカ——伝統と革新』 東京大学出版会、1982 年、185-223 頁。
- “The Socialist Party of America and Eugene V. Debs's Campaign in the 1912 Election” 『北大法学論集』 28 卷 4 号、29 卷 1 号合併号、1978 年、83-132 頁。
- 『『マッカーシズム』と政党政治』 『思想』 No.609 (1975 年 3 月)、24-45 頁。

D. 書評

- 「渡辺靖 『アメリカン・デモクラシーの逆説』」 『東京新聞』 2010 年 12 月 12 日。
- 「木畑洋一 『イギリス帝国と帝国主義——比較と関係の視座』」 『アメリカ太平洋研究』 Vol.9 (2009 年 3 月)、204-209 頁。
- 「本間長世 『共和国アメリカの誕生——ワシントンと建国の理念』」 『アメリカ太平洋研究』 Vol.7 (2007 年 3 月)、159-166 頁。
- 「油井大三郎・遠藤泰生編 『浸透するアメリカ・拒まれるアメリカ』」 『アメリカ学会報』 No. 154 (2004 年 7 月)、6 頁。
- 「有賀貞他編 『アメリカ史 1・2』」 『アメリカ学会報』 No.117 (1995 年 4 月)、3 頁。
- 「解説——歴史的文脈への接近」 斎藤眞著 『アメリカとは何か』 平凡社ライブラリー、1995 年、379-388 頁。
- 「春名幹男 『スクリーン音が消えた——東芝事件と米情報工作の真相』」 『潮』 1994 年 2 月号。
- 「五十嵐武士 『政策革新の政治学』」 『アメリカ学会報』 No.110 (1993 年 9 月)、4 頁。
- 「学界展望——Richard K. Scher, *Politics in the New South: Republicanism, Race, and Leadership in the Twentieth Century*」 『国家学界雑誌』 第 106 卷、第 7・8 号 (1993 年 8 月)、235-237 頁。
- 「史実と思想の間——斎藤眞 『アメリカ革命史研究——自由と統合』」 『思想』 No.825 (1993 年 3 月)、154-163 頁。
- 「〈合評会〉報告 1」 (東京大学社会科学研究所編 『現代日本社会 7 国際化』) 『社会科学研究』 (1993 年 3 月)、111-118 頁。
- 「1991 年の歴史学界——回顧と展望 (北アメリカ)」 『史学雑誌』 第 101 編、第 5 号 (史学会) (1992 年 5 月)、374-382 頁。
- 「荒このみ 『女のアメリカ』」 『中央評論』 vol.40, No.2 (1988 年 6 月)、185-187 頁。
- 「学界展望——Richard L. McCormick, *The Party Period and Public Policy*」 『国家学界雑誌』 第 101 卷、第 11・12 号 (1988 年 11 月)、143-147 頁。
- 『『文明としてのアメリカ』 全 5 巻』 『アメリカ学会報』 No.78 (1985 年 9 月)、5-6 頁。
- 「学界展望——Lawrence Goodwyn, *Democratic Promise: The Populist Moment in America*」 『国家学会雑誌』 第 93 卷、第 5・6 号 (1980 年 5 月)、143-148 頁。

E. 評論・その他

- 項目執筆「マッカーシイズム」「非米活動委員会」「ゴールドウォーター」荒このみ他編『アメリカを知る事典』新版、平凡社、2012年。
- 「斎藤先生の政治史」『こまが廻り出した』（斎藤眞先生追悼集）、東京大学出版会、2011年3月25日、182-193頁。
- 「茶会旋風・原点回帰求める『右翼バネ』」『朝日新聞』2010年10月30日。
- 講演筆記「米国の再生を誓い、『責任と負担』を訴える——オバマ大統領の就任演説と勝利の要因」『展望』（現代社会民主主義研究会会報）季刊・第14号、2009年3月15日、2-9頁。
- 「コメント」（特集「アメリカ太平洋とイギリス帝国」）『アメリカ太平洋研究』Vol.9（2009年3月）、55-59頁。
- 「木畑先生の研究と組織運営」『CPAS Newsletter』Vol.9 No.2（2009年3月）、2頁。
- 「2008年CPAS公開シンポジウム『アメリカ太平洋とイギリス帝国』」『CPAS Newsletter』Vol.9 No.2（2009年3月）、9頁。
- 「センタープロジェクト紹介・基盤研究（A）『現代アメリカ・ナショナリズムの複合的編制をめぐる学際的研究』」『CPAS Newsletter』Vol.9 No.2（March 2009）、12頁。
- 「オバマ政治1ヶ月 革命的变化なるか未知数」『朝日新聞』2009年2月26日。
- インタビュー「オバマ大統領でアメリカは変わるか——日本は創造的外交提案を」『都市問題』Vol.100, No.2（2009年2月号）、36-51頁。
- 「就任演説 多様な層に配慮」『北海道新聞』2009年1月22日。
- 「President Obama」『代ゼミジャーナル——Dash』Vol.576（2009年2月10日）、10頁。
- 「オバマ次期政権の前途」『読売新聞』2008年11月19日。
- インタビュー「米大統領選の行方——多様性のアメリカは復活するか」『世界』2008年11月号、62-72頁。
- 対談（松本礼二）「アメリカ民主主義の原像とは——トクヴィル『アメリカのデモクラシー』新訳をめぐる」『論座』2008年9月号、102-115頁。
- エッセイ「『アメリカ研究』の再編」日本学術振興会・人文社会科学振興プロジェクト研究事業『学術の新しい風～見えないものを見るために～』2007年度05号、1頁。
- インタビュー「民主党の勝利で米国は変わるか 中間選挙の結果が意味するもの」『世界』2007年1月号、179-188頁。
- 「第二期ブッシュ政権の課題：イラク情勢がネック」『北海道新聞』（夕刊）2005年1月18日。
- 項目執筆「反共主義」「ポピュリズム」『国際政治事典』（弘文堂、2005年）。
- 項目執筆「民主政治」「憲法」「合衆国」「大統領」『歴史学事典』第12巻「王と国家」（弘文堂、2005年）。
- 「米の『民主化』に限界」（「イラク開戦1年——大義と貢献」1）『北海道新聞』2004年3月9日。
- 「イラクとベトナム戦争」『読売新聞』（夕刊）2003年9月10日。
- 鼎談（久保文明東京大学教授、中林美恵子経済産業研究所研究員）「民主帝国アメリカン・パワー」『毎日新聞』（朝刊）2003年9月4日。

- 「活動報告」北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター『年次報告書』(2002年5月)、90-91頁。
- インタビュー「秩序踏みにじるアメリカ」『沖縄タイムズ』2003年3月20日。
- インタビュー「対イラク決議案」『毎日新聞』2003年3月9日。
- インタビュー「イラク攻撃是か非か」『朝日新聞』2003年3月7日。
- 「現代アメリカにおける宗教と政治」(Research Update)『j-mail News Letter』(北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター) No.11 (2003年冬号)、1頁。
- 対談(酒井啓子アジア経済研究所主任研究員)「イラク情勢」『北海道新聞』(朝刊) 2003年2月20日。
- 「ユニラテラリズムの源流」『毎日新聞』(朝刊) 2003年2月17日。
- 「著者に聞く：アメリカニズム」『エコノミスト』2003年2月4日号、60頁。
- 紹介「ひと」 「9・11以後の米国研究を模索」『毎日新聞』(朝刊) 2002年9月8日。
- (匿名)「キャンパス探訪・今村先生の歩いた路」『リテラ・ポプリ』(北海道大学広報誌)、第13号(2002年秋号)、14頁。
- インタビュー「アメリカ・デモクラシーの特質とは何か」『世界』2002年2月号。
- 項目執筆「社会問題」「移民法」「反ユダヤ主義」「フォーディズム」「テリトリー」斎藤眞他編『アメリカを知る事典』新訂増補版(平凡社、2000年)。
- “Comment: A Historical Overview of the Public and the Private.” JCAS Symposium Series 12, International Area Studies Conference V, *The Public and the Private in the United States*, ed. Hitoshi Abe, Hiroko Sato, and Chieko Kitagawa Otsuru (Osaka, 2000), 13-17.
- 「アメリカ研究の現状を考える」『国際文化会館会報』Vol.9, No.2 (1999年4月)。
- 「マッカーシズム再解釈の動向」『アメリカ学会会報』No.133 (1999年4月)、1頁。
- 「(コラム) リパブリカニズム」野村達朗編『アメリカの歴史』(ミネルヴァ書房、1998年)、55-56頁。
- 「第15回アメリカ研究札幌クールセミナー報告」『アメリカ研究振興会会報』第55号(1995年)。
- 網目執筆「アメリカ移民法」「中国人排斥法」「日米紳士協約」「排日移民法」、松原正毅編『世界民族問題事典』(平凡社、1995年)。
- 「大学ランキングへの疑問——『いい出あい』へ大学も努力を」朝日新聞(夕刊) 1994年6月20日。
- 「『グレープジュース』外交」『政治研究会会報』(北大政治研究会) 第8号、1-2頁。
- 「ボルティモアの新渡戸稲造」『新渡戸稲造全集』月報20(1986年)、1-4頁。

F. 口頭発表

- 報告「アメリカ研究を世界に開く」アメリカ政治研究会、東京大学大学院総合文化研究科、2011年12月15日。
- 報告「マッカーシズム再考」東京大学法学部政治史研究会、2011年11月26日。
- 報告「戦後アメリカにおける草の根保守の系譜」第4回ヘボン＝渋沢記念講座シンポジウム『アメリカ保守主義の現在：ティーパーティー、知識人、そして共和党』東京大学法学部、2011年7月28日。

- コメント、同時代史学会シンポジウム『転形期——1968年以後』成城大学、2010年12月4日。
- 報告「国際安全保障——アメリカの見方」国際シンポジウム『世界危機後のロシアと日本』モスクワ国際関係大学、2010年9月7日。
- 報告「オバマ大統領の政治哲学」第3回ヘボン＝渋沢記念講座シンポジウム『オバマ大統領の政治理念を分析する』東京大学法学部、2010年7月29日。
- 報告「世界史の中の『アメリカ帝国』」新学術領域研究「比較地域大国論」第4班研究会、東京大学大学院総合文化研究科、2009年11月22日。
- 報告「オバマ政権の可能性と限界」みずほグローバルセミナー、2009年10月29日。
- 報告「アメリカ現代史から20世紀を考える」北海道高等学校世界史研究会第40回大会記念シンポジウム「高校生に20世紀をどう教えるか」北海道大学、2009年8月7日。
- 報告「ブッシュ外交からオバマ外交へ」日本平和学会2009年春季大会、恵泉女子大学、2009年6月13日。
- 報告“On American Freedom”東京大学アメリカ太平洋地域研究センター公開シンポジウム「アメリカの自由——過去と現在」、2009年3月20日。
- 報告「シヴィック・ナショナリズムと宗教——アメリカ・キリスト教の場合」東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム、2008年11月1日。
- コメント、東京大学アメリカ太平洋地域研究センターシンポジウム「アメリカ太平洋とイギリス帝国」、2008年9月13日。
- 報告「地域研究としてのアメリカ学」東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム、2007年12月15日。
- 報告「ファンダメンタリズム再考」東洋哲学研究会、2007年12月6日。
- 報告「保守かりべラルか——現代アメリカにおける政治対立」日本記者クラブ「アメリカの底流」研究会、2007年11月2日。
- 報告「アメリカニズム再訪」北海道アメリカ文学会年次大会、藤女子大学、2006年12月2日。
- 報告「アメリカ・ポピュリズムの現在」北大政治研究会、2006年11月17日。
- 報告「アメリカ・ポピュリズムへの（からの）問題視角」神戸大学、2006年10月28日。
- コメント「シンポジウム：19世紀ヨーロッパ知識人のアメリカ表象」日本社会思想史学会年次大会、法政大学市ヶ谷キャンパス、2006年10月21日。
- 討論、Session I: Democracy in Globalization, International Seminar: Questioning from the Borderline: Cross-Cultural Dialogue In Tackling a Global Agenda Organized by The International House of Japan、国際文化会館、2006年7月19-22日。
- 報告“A New Perspective of American History from the Other Side of the Pacific” American Studies in Trans-Pacific Perspective、日本アメリカ学会創立40周年記念国際シンポジウム、南山大学、2006年6月9日。
- 報告「アメリカ建国の理念——『近代』と『宗教』の相克」同志社大学一神教学際研究センター、2006年1月21日。
- 報告“Tocqueville and the Origins of American Studies in Postwar Japan”トクヴィル生誕200年記念国際シンポジウム「アメリカとフランス、二つのデモクラシー？——日本からの視点」日仏会館、2005年6月10日-12日。

- 報告「アメリカニズムと『人種』」南山大学アメリカ研究センター、2005年1月29日。
- コメント、総合討論「平和構築をめざして」国際シンポジウム「平和構築と地域研究」CGS研究会、東京大学、2004年12月4日。
- 報告「現代アメリカの保守主義の動向」早稲田大学、2004年11月20日。
- 報告「現代アメリカの保守主義の動向」90年代日本の思想変容研究会第16回、東京大学社会科学研究所、2004年11月19日。
- コメント「ロシア・東欧と米国のユニラテラリズム」第33回ロシア・東欧学会、共通論題Ⅱ、北海道大学、2004年10月10日。
- 報告「アメリカニズムと『帝国』」共通論題Ⅱ「グローバルパワーとしてのアメリカ内政構造」2004年日本政治学会年次大会、札幌大学、2004年10月3日。
- 報告“American Influence and American Studies in Postwar Japan.” At a two day seminar *Indonesia and Japan in the 21st Century Asia Pacific*, sponsored by JICA and Center for Japanese Studies, University of Indonesia at Regent Hotel Jakarta, August 10, 2004.
- 報告「アメリカニズムと『アメリカ帝国』」日本財団、2004年7月23日。
- 報告「原理主義とアメリカニズム」岩波書店、2004年4月29日。
- 報告「地域研究における『介入』と『人間の安全保障』」国際シンポジウム『人間の安全保障』霞ヶ関ビル・プラザホール、2004年1月10日。
- 報告「アメリカの占領と『他者』像」第2回同時代史学会、法政大学、2003年12月7日。
- 司会、シンポジウムⅠ：アメリカ史における「人種」の意義、第28回アメリカ史研究者夏期セミナー、南山学園研修センター、2003年9月20日。
- 報告「アメリカニズム論の射程」同志社大学アメリカ研究センター、2003年7月26日。
- 報告「ナショナリズムと反ナショナリズム——戦後アメリカの場合」アメリカ史研究会ミニ・シンポジウム「第二次大戦後アメリカのナショナリズム」東京大学駒場キャンパス、2003年7月5日。
- 報告「『アメリカ帝国』の歴史的展開」岩波書店、2003年4月26日。
- 報告「ユニラテラリズムとは何か——アメリカ対外活動の原理」岩波書店、2003年4月12日。
- 報告“Teaching American Experience in Japan.” At the annual meeting of the Organization of American Historians, at the Convention Center of Memphis, United States, April 5, 2003.
- 報告「『9.11』以後のアメリカ」東洋学園大学多文化主義研究会、国際文化会館、2003年2月28日。
- 報告「『9.11』以後のアメリカ」『潮』主催研究会、ホテル・エドモント、2003年2月27日。
- 報告「『マッカーシズム』再考」東京大学政治史研究会、2002年10月26日。
- 報告「20世紀アメリカにおける『政治』認識の変容」2002年日本政治学会年次大会、共通論題Ⅰ「20世紀は政治学をどう変えたか」愛媛大学、2002年10月5日。
- コメント、シンポジウム「新しい国際危機とアメリカ——同時多発テロ事件が投げかけるもの」日本アメリカ学会年次大会、明治大学、2002年6月1日。
- 報告「アメリカ保守主義再考」「米国政治：共和党右派とその支持勢力」研究会、日本国際問題研究所内会議室、2001年12月14日。

- 討論「民族共存の条件」(共通論題)、日本比較政治学会、京都大学、2000年6月25日。
- 報告「アメリカ史における『内戦』の意義」アメリカ政治研究会、慶応大学、2000年12月2日。
- 報告「アメリカニズム：20世紀から21世紀へ」神戸大学国際文化学部主催、第5回国際シンポジウム、滝川記念学術交流会館、2000年11月25日。
- 報告「日本の市民とアメリカの市民——比較市民文化論の視点から」国際シンポジウム『『市民』とは何か——現代市民社会論の現状と課題』聖学院大学総合研究所、池袋メトロポリタンプラザ、2000年9月15日。
- 講演「アメリカン・デモクラシーと地方分権」北海道地方自治土曜講座、2000年8月20日。
- コメント、共通論題「民族共存の条件」2000年比較政治学会研究大会、京都大学、2000年6月25日。
- 報告“Japanese Reception of American and Soviet Culture during the Cold War, 1945-1963.” At the annual meeting of the American Historical Association, at Marriott Hotel in Chicago, January 6-9, 2000.
- 報告“The Situation of American History in Japan.” At the LaPietro Conference, Florence, July 4-7, 1999.
- 報告『『アメリカの世紀』とアメリカ研究』日本アメリカ学会年次大会、大正大学、1999年6月6-7日。
- 報告「アメリカ・ナショナリズムへの視角」国立民俗学博物館、港区立図書館、1999年6月4日。
- “Comment: A Historical Overview of the Public and the Private” 国立民俗学博物館、1999年1月18日-21日。
- 報告“Predecessors: a Personal View.” At The 50th Anniversary International Symposium of the *Amerika Institute* of the University of Amsterdam, under the General Theme of “Predecessors: Intellectual Lineages in American Studies,” Universiteit von Amsterdam, Sept. 9-12, 1998.
- 報告「アメリカニズムの国内的起源」東京大学政治史研究会、1997年9月28日。
- 司会、「ポスト冷戦のアメリカの国際的地位」日本アメリカ学会第30回年次大会、東京大学、1996年6月16日。
- 討論、分科会C「現代政治と宗教」日本政治学会年次大会、北海道大学、1996年10月5日。
- 報告「マルティカルチュラリズムの今日的地平」共同研究「アメリカ合衆国における『多民族性』の性格についての研究」国立民族学博物館、1995年11月14日。
- 報告「共和主義論争の現代的意義」アメリカ史研究者夏期合宿セミナー、大阪ガーデンパレス、1995年8月22日。
- 報告「わが国における戦後のアメリカ研究の動向と問題点」立命館大学アメリカ研究センター、1995年11月20日。
- 報告「“multiculturalism” 論争の射程」シンポジウム「アメリカン・エスニシティのとりえ方」日本アメリカ学会年次大会、共立女子大学、1994年4月2日。

- “Comment on Peter Hall’s Paper ‘The Political Economies of Europe in an Era of Interdependence,’” IPSA Round Table Kyoto (Kyoto International Conference Hall, March 27, 1994)
- 報告「アメリカ反共主義の位相」東京大学社会科学研究所全体研究会、1993年6月8日。
- 報告“The Meaning of Political Radicalism in Cold War America”日本アメリカ学会年次大会、南山大学、1991年3月30日。
- 報告「アメリカ政党制の現在——1986年中間選挙をめぐって」北海道大学政治研究会、1987年1月23日。
- 報告“Social Control and Socialism” Kyoto American Studies Seminar（京都私学会館、July 17, 1986）。
- 報告“Some Reflections on the New Right,” PRESENT AND FUTURE OF AMERICAN SOCIETY—A Dialogue Between Profs. Cox and Tumarkin and Young Japanese Scholars—Round Table Discussion (International House of Japan, April 5, 1986)。

G. その他の学会参加

- 司会「部会A ポスト冷戦のアメリカの国際的地位」日本アメリカ学会年次大会、東京大学、1996年6月16日。
- 〔教育活動——学外講座等〕
- 報告「オバマ政権の登場の意味について」財団法人俱進会、第85回セミナー、2009年4月18日。
- 講演「オバマ大統領の誕生と変貌するアメリカ——民主党政権で変わるものと変わらないもの」、現代社会民主主義研究会第30回公開講座、中野サンプラザ、2009年1月21日。
- 「曲がり角のアメリカ——2008年大統領選挙の歴史的意味」長野市民講座、2008年11月28日。
- 「アメリカの現在とその歴史的背景」第1回国際教養セミナー『多文化共生の道を探る——グローバル化の中その他文化と日本』八王子セミナーハウス、2007年11月16-17日。
- 「アメリカの今を知る」ソクラテスのカフェ・学術振興会サイエンス・カフェ共催、くすみ書房（札幌）、2007年9月15日。
- 「思想としてのアメリカ」武蔵野市市民講座、成蹊大学、2007年9月。
- 「『アメリカ帝国』の歴史」札幌学院大学法学部特別講演会、2004年11月24日。
- 「日露戦争時代のアメリカ」世田谷市民大学、2004年7月27-28日。
- 「アメリカニズムとは何か——『理念国家』の形成と変容」朝日カルチャーセンター（東京）、2003年4月26日。
- 「『9・11同時多発テロ』以後のアメリカ」、札幌「遊」、2002年9月11日。
- 「ブッシュ政権とアメリカの行方」女性大学、北海道立女性プラザ、2001年5月22日。
- 「ブッシュ政権とアメリカの行方」UHB大学、2001年5月8日。
- 「20世紀のアメリカニズム」横浜アーバンカレッジ、1998年6月4日。